

令和５年度 第２回碧南海浜水族館協議会議録（要約）

- 1 日 時 令和６年２月２７日（火） １５：３０～１６：２０
- 2 場 所 碧南海浜水族館 ２階研修室
- 3 会議出席者（敬称略）
会 長 小澤 徹
副会長 杉浦道文
委 員 小島広明、小林泰博、伊藤草華、浅井久夫、水野裕子、
宮原英明、長谷川哲巳、奥村仁成、阿知波英明
参 与 生田弘幸、岡崎康浩
事務局 森徹、地村佳純、生田春幸、村松観貴子
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議概要

(1) 協議事項

- ア 令和５年度 事業報告について
- イ 令和６年度 事業計画について

(2) 報告事項

- ア 令和５年度碧南海浜水族館運営研究会議について

(3) 連絡事項

- ア 令和６年度 第１回碧南海浜水族館協議会の日程について
令和６年５月下旬 午後３時３０分～の予定

6 議事および質疑

(1) 協議事項

- ア 令和５年度事業報告について
事務局 <資料１により説明>
副会長 令和５年度事業報告についてご意見ご質問はあるか。
委員Ａ 日展にも入選している上田章子さんの「布で描く魚の世界」を観たがとても素晴らしい作品展だった。また、一般向けの「フォトコンテスト作品展」もとても興味をそそられるものだったので、今後もこのような企画を検討してはいかがか。

自然観察会のなかの「ダンゴムシ探検隊」は、20人募集のところ3人しか参加していない。私は虫が大好きで孫を連れて参加したいほどであるが、どうして参加人数がこれほど少なかったのか。

事務局 ダンゴムシ探検隊は、協議会委員のアドバイスも参考にして、学習指導支援員が企画した。実際に雑木林を散策してダンゴムシの生活環境を観察したり、用意した立体の迷路板で歩行パターンを観察したり、参加者はとても楽しそうだった。だいたい前から情報を発信して募集したり、当日も受け入れられるようにしたりしたが参加者が少なかった。次回はもっと具体的にどのような楽しい観察会なのかをアピールできるよう改善をしなければならいと考えている。

委員 A 希少淡水魚保護事業のなかで、イタセンパラについて伺う。以前の報道で、日進市のイタセンパラが絶滅したと聞いたことがある。現在海浜水族館で飼育しているイタセンパラは木曽川水系群なのか、どこの系等群なのか。

さらに120尾が繁殖したが、これは増加傾向なのか減少傾向なのか、他の絶滅危惧種であるウシモツゴやカワバタモロコ繁殖状況と併せて伺う。

このような繁殖個体は将来的に自然界に復帰させる計画はあるのか。

事務局 イタセンパラは環境省との連携事業の一環として携わってきているが、ご指摘の通り日進市のフィールドにおいては生息していない状況のようである。海浜水族館では木曽川水系のイタセンパラの保全について、アクアトトぎふ、東山動物園、岐阜県水産研究場と連携するプロジェクトに参画している。イタセンパラは寿命が一年であることから今は卵が二枚貝の中で成長している時期である。順調であればゴールデンウィーク頃に仔魚誕生の話題を発信することができると期待している。秋に産み付けられた卵は二枚貝の中で冬を越し、春になるとふ化した仔魚が貝から出てきて成長する。秋には成魚となり二枚貝に産卵をして寿命を迎え

る。寿命が短いこともあり昨年は120個体が繁殖したが、各年の状況により円滑に繁殖したりしなかったりが不安定であることからリスク分散のために各施設の連携が大切である。その他、ニホンイシガメ、ヤリタナゴ、カワバタモロコ、ウシモツゴは毎年順調に増加傾向である。以上の活動から、イタセンパラに関しては環境省が主導で野生復帰の予定があり、三河地方ではあまり話題に上らないが、新聞の県内版記事では海浜水族館の活動も紹介されている。

委員 B 先月まで開催していた受験応援企画に寄せられていた絵馬の投書集計が最近のフェイスブックにおいて紹介されていたが、結果報告はとても大事だと思う。また絵馬に使われていた紐がビニールではなく麻を使ったことも自然に配慮していてよかったと思う。

愛知県の生物収集調査について定期調査は大変重要なのでこれからも続けて頂きたい。その中でクラゲは三河湾、ウミホタルは伊勢湾に限定した理由は何か。

事務局 これまでの調査経験から、それぞれの生物が安定して出現する海域を特定した中から通いやすいポイントにて調査をしている。クラゲは来年度の観察会に向けた予備調査もかねて三河湾に面した衣浦海底トンネルの両側岸壁とし、季節の移ろいに合わせた出現する種類を確認している。ウミホタルも公開実験に向けて、一年間の生息状況の確認のため伊勢湾に面した美浜町の岸壁にて調査を実施した。フジツボは安定した常設展示を目的に碧南市内の河口を定点として周年調査をしている。

委員 B 生物の収集に関しては様々な水族館と連携しているが、海浜水族館から搬出することはあるのか。

事務局 碧南市から交換で生物を搬出する機会は少ないが、以前には希少淡水魚やタカアシガニを送ったことがある。

委員 B 今年度は3テーマについて研究発表要旨が示されていたことはとてもうれしかった。活動成果を研究会で発表することはとても

大切なので、旅費を確保して現地で積極的にアピールしてほしい。
タチウオに関する研究発表のなかで、馴致できなかった環境変化
とは具体的に何か。

事務局 タチウオは三河湾伊勢湾にも生息しているが、駿河湾において安全に収集できる機会があったので収集輸送飼育展示に挑戦した。
タチウオにとっては、自然界から船上、輸送水槽、予備水槽、展示水槽まで次々と変化する環境にはとても配慮した。それは水温を含む水質の変化や、閉鎖環境の変化などであるが、予備水槽から展示水槽に移動した際は光刺激と遊泳範囲の急激な変化がパニックに陥った原因であったと考えている。

副会長 (1) 協議事項アについての承認を求める。

全 員 挙手

副会長 (1) 協議事項アについて承認されたことを確認した。

(1) 協議事項イ令和6年度事業計画について事務局の説明を求める。

イ 令和6年度事業計画について

事務局 <資料2により説明>

副会長 令和6年度事業計画についてご意見ご質問はあるか。

委員A 計画の冒頭で「新体制を立ち上げ」と記されているが、具体的にどのような内容か。

事務局 長らく展示係長を兼務した館長が主となり年間行事計画を調整してきたが、今年度は育児休暇中だった学芸員が職場復帰したり新規の学芸員が配属されたりして次年度からの年間行事計画も3人の学芸員主導で計画を策定した。若くて新鮮な活動内容に期待していただきたい。また、館長が今年度で役職定年を迎え交代する見込みであることから新体制とした。

委員A 来年度の特別展の概要を伺いたい。

事務局 夏については「(仮称) 水族最強決定戦」と題し、水生生物の生き残るための工夫や身体能力などに注目した内容とする予定。冬については「(仮称) しましまみずたまぐるぐる」と題し、生き

物の個性豊かな模様に注目した内容とする予定。それぞれの展示構成や展示生物などの詳細はこれから策定する。

委員 B ミュージアムショップでは、5～6年前から比較すると商品がだいぶ充実してきたと思う。自身も度々楽しい思いで購入している。なかなか難しいかと思うが、皆でアイディアを出しながらさらなる充実を図って頂きたい。

副会長 (1) 協議事項イについての承認を求める。

全 員 挙手

副会長 (1) 協議事項イについて承認されたことを確認した。

(2) 報告事項ア令和5年度碧南海浜水族館運営研究会議について事務局の説明を求める。

(2) 報告事項

ア 令和5年度 碧南海浜水族館運営研究会議について

委員 C <当日配布資料3により説明>

副会長 何かご意見、ご質問はないか。

全 員 特になし

(3) 連絡事項

ア 令和6年度第1回碧南海浜水族館協議会について

副会長 令和6年度第1回碧南海浜水族館協議会の開催 日程について事務局の説明を求める。

事務局 令和6年度の第1回協議会は5月下旬の15:30～に開催を予定している。

今回の協議会につきまして、近日中に今回の議事録の素案を各委員に送るので、点検をお願いします。

副会長 これで議事の一切を終わる。